

# 会 議 録

## 1 会議名

平成30年度 第5回三郷区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

(1) 地域協議会会長会議について（公開）

(2) 自主的審議事項「三郷区の人口減少について」（公開）

## 3 開催日時

平成30年11月27日（火） 午後6時30分から午後7時41分まで

## 4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・ 委 員：山口典夫（会長）、竹内浩行（副会長）、保坂裕子（副会長）、尾崎祐三、  
加藤与三郎、佐藤 功、二野 浩、山田宏文、横尾彰平

・ 事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

## 8 発言の内容

### 【小林主任】

・ 池内委員、伊藤委員、保坂真由美委員を除く9名の出席があり、上越市地域自治  
区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、  
会議の成立を報告

・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は山口会長が務めることを報告

### 【山口会長】

・ 会議の開会を宣言

・ 会議録の確認：加藤委員、佐藤委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

### 【佐藤センター長】

資料により説明。

【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

一次第3報告（1）「地域協議会会長会議について」—

【山口会長】

次第3報告（1）「地域協議会会長会議について」に入る。

1 1月14日に地域協議会会長会議が開かれ、私が出席したので報告する。

資料No.1により説明。

- ・「連絡事項」の「地域活動支援事業の目的・効果に照らした見直し」について、見直しに係る事項については各区に一任することであるため、疑義等があれば来年度の地域活動支援事業について検討する時に協議したい。
- ・「連絡事項」の「平成31年度の地域活動支援事業の概要について」は、資料のとおりとのこと。3月議会をってから正式に発表される。
- ・「意見交換」では、3つのグループに分かれて、テーマを決め、色々と考えていることを話し合った。

1 各区の自主的審議の状況について

部会あるいは委員会で何を取り上げるか協議し、その後全体で協議した。

空き家問題をテーマにしたが、民法等の問題もあるため非常に難しい。

2 地域活動支援事業について

募集期間を全市で統一してほしい。

二次募集をするべきではない。予算が残れば、次年度に繰り越す。

また、地域支え合い事業について、地域協議会との関わりはどうかと質問が出たため、三郷区の事例を話した。

説明について、質疑を求めるがなし。

一次第4議題（1）自主的審議事項「三郷区の人口減少について」—

**【山口会長】**

次第4議題（1）「自主的審議事項『三郷区の人口減少について』」に入る。

今後の自主的審議の進め方について、委員から出された意見をもとに正副会長で検討した結果を説明する。これまでの審議は、人口減少を食い止めるためにどのような対策を取るべきか、というものがほとんどであった。対策を検討するには、まず人口減少の原因を整理し、そこから有効な方法を検討する必要があると考えるが、それについてあまり話し合っただけであった。このことから、次のとおり行うのがよいと考えた。

まず、人口減少がどのような原因で起きているか、全体で協議し、協議の結果をもとに、地域協議会でどのようなことに取り組むか検討する。

進め方について質疑を求めるがなし。

説明のとおり進めることでよいか諮り、委員の了承を得る。

本日の会議では、まず、人口減少がどのような原因で起きているかを協議する。

委員に意見を求める。

**【尾崎委員】**

当たり前なこと過ぎて、改めて言われるとなかなか話しづらい。思うに、やはり少子化。それに尽きるような気がする。このあいだ新聞で、三郷小学校でミュージカルをしたとあった。全校生徒は93人だったか。

**【保坂副会長】**

転校生が来たため、現在94人。

**【尾崎委員】**

100人いなかったのかと思った。これは、地域全体の小学生の数とイコールではないが、いつまで、この94人と数人が続くか、来年になればどうなっていくのかと思った。今私の孫が保育園に行っているが、5人以下というものもあるようだ。小学校になればまた違ってくるのかもしれないが、少子化でどんどんそうなっていくのかと。私の町内でも、赤ちゃんが生まれたのは二夫婦ぐらいで、あとは続かないようだ。その子ども達のことにも心配。大きくなった時に小学校が複式になるということになると、それも問題になる。また、統合問題も出てくるだろう。先に進むと、少子化をどうしたらよいかという話になるが、その話はまた次にする。

【加藤委員】

人数はいるのだろうが、就職口が限定されるのも一つの原因ではないか。こっちで就職したいと思っても、希望するところがないと、やはり都会に出る。大企業ともなれば、向うの大学に行っていれば、採用試験などみんな向うで済んでしまう。そうすると、こっちに帰って来られないという状況が生まれると思う。企業を誘致するのも一つの手ではないか。

【山口会長】

加藤委員の意見について、私の家庭を考えると、私と妻の二人。子どもは二人いるが、長女は嫁に行った。長男は就職の関係で、卒業後県外にいる。長男がこちらに就職口があっていれば、跡を取って人口も少し増えるかと思う。三郷だけでなく全市的な問題だと思う。

【佐藤委員】

身近なところを見ると、長男が家を出る。就職で県外にではなく、家を出て高田に住まいを持つ。色々な状況を聞いていると、今の考え方として、若い者と同居しない。それが良いか悪いかは別として、お互いに気を使うから、若い者は若い者で、おじいちゃんおばあちゃんは、という考えがあり、それがどんどん当たり前、常識になってしまった。そのため、別々に所帯を持つことが当たり前だというのが見える。私も色々ところで「長男が街に出て家を建てて、もうこちらに来ない」という話を数多く聞く。上越市全体で考えれば違うのだろうが、地区ごとで見た時、それがかなり大きなものを占めていると思う。

【山口会長】

要するに、若者の定着というか、若者がこの区内に住まない。

【佐藤委員】

昔は同居するのが当たり前だったが、今はそういった考えではなくなっているような気がする。

【山口会長】

同居でなくても、ここに家を構えればまた違いうだろう。

【佐藤委員】

しかし、他の地区に家を建ててしまえば、三郷地区には戻ってこない。その家は

おじいちゃん、おばあちゃんだけになり、若い人が来なければ、だんだん。うちの集落は今19戸だが、一人暮らしや、夫婦で80歳を越えている家庭がある。そうすると、もう10年したら半分になってしまうのではないか。それが急速に進んでいる状態。

【山口会長】

それを憂慮して、今話をしている。

【佐藤委員】

そう。そういったことが常識みたいになってしまった。

【二野委員】

皆さんの話を聞いていて、本当にそのとおりだと思うが、結局人口減少の原因そのものというのは、我々の父親の時代は8、9人兄弟が当たり前にいたが、次の世代になると3、4人くらい。私は二人しかいない。教育にはお金が掛かり、そのようなことがついて回ってくる。8、9人兄弟がいた時代は、中学校が終わると独自で県外に就職したり、独自で勤め先の社長に大学に行かせてもらったり、私の親戚にもそのような方がいるが、皆で支え合って生きてきたのだろう。今の世の中はそんな簡単にいかない。国、県、市の補助などがだんだん充実してきているが、本当にこれで子どもが増えるのか、というのがまだ見えない。もう一つは、先ほど意見が出ていたが、長男、長女が跡を継ぐという概念がなくなってきている。もう一つは就職問題で、自分が行きたいところがあり、どうしても夢を叶えるのだとなれば、それが地方にはないというのがあるかと思う。それから農業離れ。三郷地区のベースになってくるのが農業。それを委託などにすると、無理してここにいることもないのではないか、という意見も耳にする。

【山口会長】

要するに、主要産業である農業離れが一つの原因でもあると。

【二野委員】

三郷地区に関しては、直接耕作しなくなれば、無理してここにいることもないと。西松野木においても、田んぼを売却されたのが何軒もある。これがどんどん増えてくる気がする。

【山田委員】

佐藤委員のとおり、就職。勤めるのにあまりよいところがないため県外に勤める人が、若い人に多い。それから、時代が変わり親と一緒に住まなくてもよいという考え方になってきている。それも減少の原因ではないか。何か魅力のあることがあり就職もあって定着することの方法を考えたがあまりない気がするので、それも一つの原因。

【山口会長】

要するに、就職、勤め先が、市内含めてこの地域に少ないということか。

【山田委員】

そう。

【横尾委員】

三郷地区の農地は、昔からそんなに減ってもいないし増えてもいない。その中で農業をする人の数はものすごく少なくて、それで生活が成り立っており、農地が小さい方は、農業の合間にこの近辺に勤めていたというのが今までの現状。今農業はもう何人も、三郷地区でも10本の指以下で耕作できるような状況になってきた。

それから、今は子どもの主体性を考え、勉強させるために都会に出しているが、その人達は帰ってこない。都会で結婚すると、こっちへ帰って来たいという気持ちがあっても、先ほどの意見のとおり勤め先の関係もある。また、配偶者が最初から住んでいればよいが、途中から親と一緒に住むというのは、話を聞いていると抵抗感があるようだ。夫婦と子どもだけで住んでいれば気楽なのだろう。夫の親と一緒に住みたくない、というのも一つの原因。うちの近所でもあるが、帰ってくると言いながら帰ってこないのは、妻が今までの生活を維持したいというのがあったりする。

それから、空き家は人口減少の大きな要因。昔は、家を買って分家に出す、一種のブーム的なものがあり、どんどん団地ができた。そこで若い人が二人の生活を味わうと、親のところに帰ってこない。困った時に戻ってきて、いいところを吸い上げて帰って行ってしまふ、という話を聞く。親の面倒を見なければいけないという認識がなくなっているのではないか。

【山口会長】

要するに、若い人達がここに住むという意識が薄れたのだろう。

【横尾委員】

夫だけ自分の家に帰ってきてても、妻が来なければ話にならない。そのような色々な問題が複雑に絡み合い、現状を作り出している。とにかく子どもがいないと人口が増えない。

【山口会長】

そうなる、三郷区だけでなく上越市全体でそうだと思う。横尾委員のとおり、私もひしひしと感じる。若者が定着するようなことがないということ。

【横尾委員】

人口の減少について、その先をどうするかは次の話になるが、そういった色々な要素が組み合わさり、人口減少が起きている気がする。

【竹内副会長】

私が妻と結婚した時は、同居について親と話し合った。親と一緒に住むことについて、当時は全然抵抗はなかったのかなど。一緒に住んでいるとトラブルが絶えずあったのは確か、それを色々な形の中で乗り越えてやってきた。それと同じことをうちの息子や娘達が繰り返すことができるかという、今の時代はそうしないのが当たり前のようになり、結婚すれば当たり前のように外へ出て行ってアパート暮らしをしたり、都会に出て行ったりということになる。農業もそうだが、やはり空き家が出てきているということは、農業のやり手がいないため、その家が絶えてしまう。後継ぎがないということで、その家のおじいちゃん、おばあちゃんが亡くなってしまうと、空き家になってしまう。近所の人達に小作で田んぼをしてもらっているが、元々の家庭が絶えてきてしまっている。そういったことが原因になってきていると思う。それをいかに解消していくかというのはなかなか難しい。横尾委員のとおり、農地を宅地化するのに分家住宅の制度が昔からあり、容易に許可が下りる場面もある。そういった制度を利用しながら、二世帯住宅など、色々な形が考えられる。三郷からの人離れも一つの原因なのかなと思う。

【山口会長】

その人離れの原因は何か。

【竹内副会長】

農業に魅力がない、農業では収益が上げられない、生活が成り立たない、仕事を

他に求める、三郷にいても魅力がない、というようなところだと思う。

【山口会長】

要するに、主産業の農業離れが一つの原因だと。

【竹内副会長】

そう。

【保坂副会長】

社会の流れ、世の中の流れとして、価値観の多様化が認められて、それを実現するために皆さんそれぞれやりたいことをして生きているということが、時代の流れとしてあるのかと。横尾委員から、妻の意見でとあったが、女性もある程度の責任を持って仕事をしていくとなると、夫の意向ですぐに何かできるとはならなくなってきている。逆に言うと、女性も働いて、自分の意見を言えるような時代になって来ているのかと思う。このあいだの日曜日に、妙高市で高齢者支援の話聞いてきた。妙高市の人口もどんどん減ってきて、今後の見通しとして、この10年で減ってきた分が5年で同じように10パーセント減ってくるとのこと。妙高市も同じような状況だが、その中で、人数は減ってもお互いに気持ちよく過ごせるための方法を考えていかないといけないという話も聞いた。人口減少は、どこかから人を連れてくるのはありだが、人の奪い合いではなく、限られた中で入って来てもらえればラッキーであり、三郷の魅力を自分達で認識し、そして来る者は拒まず、入って来てくれる方にはたくさん入って来てもらい、地元の三郷が住みよく、楽しく、もっとよい言葉があればよいが、皆でお互いに思いやりを持ちながら過ごせる、そんな三郷区でありたいと思う。

【山口会長】

私も、自分の周りを見ても、生活しやすい町内、地域が一番だと思う。確かに人口は減っているが、どこの町も村も、市も国もそうだが、いかに自分が生活しやすい地域か。これに尽きると思っている。それはどこに原因があるかという、うまく出て来ないが、そのように将来的になればと思う。私も70歳であり、だんだん億劫（おっくう）になってきている。そうなる、それを支えてくれるシステムのようなものがあれば生活しやすくなると思う。

他に意見を求めるがなし。



委員から出された意見は後ほど取りまとめ、地域協議会でどのようなことに取り組むかについて、今後の協議の参考にしたい。

地域協議会でどのようなことに取り組むかについては、これまでも議論を進めてきたことから、本日の会議でこれまでの意見をもとに協議する。

正副会長案としては、これまでの協議の中で「他地域から三郷区に転入してきた方への聞き取りを行いたい」という意見が出ており、具体的な対策の検討の参考になることから、まずはそれを行いたいと考えた。

他地域から三郷区に転入してきた方への聞き取りを実施することでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

それでは、具体的な内容について協議する。

(具体的な内容について協議し、以下のとおり決定)

- ・対象者は、転入して10年以内の方。
- ・会議に来てもらい、座談会方式で話を聞く。
- ・12月20日に会議開催を予定しており、そこで行う。
- ・三郷区を選んだ動機、来てよかった点、悪かった点の3点について話を聞く。
- ・候補者と同じ町内の委員が、直接出席の呼び掛けを行う。
- ・候補者は、辰尾新田2軒、今池1軒、桜町2軒、西松野木1軒、東稲塚新田1軒、長者町1軒の計8軒。
- ・候補者が複数いる町内は、優先順位をつけて呼び掛ける。
- ・具体的な内容についてまとめた資料を、呼び掛けを行う委員に送付する。
- ・12月3日までに、候補者の出欠を事務局に連絡する。
- ・出席する方には、後日会長名で依頼文を送付する。

もし出席可能な方がいない場合は、事務局と相談する。ないとは思いますが、努力してほしい。

質疑を求めるがなし。

12月20日は、少なくとも呼び掛けをする委員は出席してほしい。頼んだのに自分は欠席では困る。急用がない限りお願いする。

次に、前回の会議で話が出た、人口減少に取り組んでいる他の区との意見交換について報告する。

意見交換の相手について正副会長で協議し、「人口減少の抑制について」を自主的審議事項にしている高士区がよいと考え、先方に提案したところ、了承された。

意見交換のテーマについては、今後先方と調整し決めたいと思うが、テーマ設定の参考にするため、高士区に聞いてみたいことについて皆さんから意見を出してもらい、それをもとに意見交換のテーマを調整したいと考えている。

そこで、本日は高士区に聞きたいことについて協議したい。進め方としては、高士区地域協議会での自主的審議の経緯について事務局から簡単に紹介してもらい、それを参考にしながら、高士区に聞きたいことについて意見を出してもらいたい。

それでよいか諮り、委員の了承を得る。

事務局に説明を依頼する。

#### 【小林主任】

高士区の自主的審議の経緯について説明。

- ・平成28年度に、人口・世帯数に関する基礎データ集で区の人口・世帯数の現状を確認した。また、住民との意見交換会「高士の未来づくり懇談会」で、人口・世帯数に関する基礎データ集を説明して参加者と情報共有を図り、意見交換をした。
- ・平成29年度に、少子高齢化、空き家対策、高士区の魅力向上など、様々な課題の解決を目指すため、「人口減少の抑制について」を自主的審議事項に取り上げた。自主的審議のテーマをさらに絞り込み、「空き家の活用」に重点を置くことが決まった。
- ・高士地区振興協議会の内部組織である高士地区町内会長連絡協議会で、区内の空き家の現状調査を実施することになったことから、平成30年度に地域協議会に調査結果を提供してもらった。協議の中で、「課題解決を図るためには実際に活動する人が必要である」という意見が委員から出たことから、地域おこし協力隊の活用が可能か、市の担当課から説明を受ける予定。

#### 【山口会長】

事務局の話参考にしながら、高士区に聞きたいことについて意見を出してほしい。委員に意見を求める。

#### 【尾崎委員】

空き家対策は、地域協議会としてどこまで踏み込めるのか。実際に動く人は地域協議会の人か、地域おこし協力隊か。私の仕事場の目の前の人が高士地区の区長で、色々話を聞いている。統計を取ったことはよいが、そこから先。実動部隊はどうなるのか、統計を取った後の話を聞いてみたい。

【竹内副会長】

地域おこし協力隊というのは、実際に高士地区で動いているのか。

【小林主任】

まだその前段階で、活用が可能かどうか、市の担当課から説明を受ける段階。

【竹内副会長】

市の担当課は、そのような組織のデータを持っているのか。

【小林主任】

自治・地域振興課の中に地域おこし協力隊の担当の係がある。詳細は分からないが、現在、13区の方で地域おこし協力隊が入っており、それについてはその係で掌握している。

【山口会長】

他に意見を求めるがなし。

正副会長案を3点話す。

- ・三郷区では今後、議論のテーマを絞り込む予定だが、高士区ではどのようにして議論のテーマを「空き家の活用」に絞り込んだのか。
- ・地域協議会で検討した内容を実行に移す方法について、どのように考えているか。
- ・転入者を増やすために、どのようなことが必要と考えているか。

このことについて、意見を求める。

【横尾委員】

よいのではないか。

【山口会長】

聞きたいことはあまり多くない方がよい。当日はフリートークになると思うが、それでよいと思う。徐々に発展して意見交換ができればよい。

三郷からはこの3点について意見交換したいと伝えることでよいか諮り、委員全

員の了承を得る。

意見交換のテーマと開催時期については、正副会長一任で先方と調整し、次回の会議で報告することでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

#### —次第5 事務連絡—

##### 【山口会長】

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

##### 【佐藤センター長】

###### ・第6回地域協議会

12月20日（木）午後6時30分～ 三郷地区公民館

###### ・地域活動フォーラム

12月16日（日）午後2時～ リージョンプラザ

###### ・三郷区地域活動支援事業に関する意見の提出を依頼

###### ・当日配布資料

地域教育往来

##### 【山口会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

###### ・会議の閉会を宣言

#### 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

#### 10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。